

「地域連携テクノセンター30 周年を迎えて」



福井工業高等専門学校
地域連携テクノセンター長

松 井 栄 樹

地域連携テクノセンターの前身となる先進技術教育センターが本校に設置されたのが 1991 年（平成 3 年）のことであり、今年 30 周年となる節目の年でもあります。当初は地域の方々や地域企業への高度教育研究やリフレッシュ教育の場の提供を目的としていましたが、地域社会からの要請もあり、組織的な産官学交流を通して地域産業、社会に貢献するという大きな目標を掲げ、地域企業との共同研究や技術相談、県内の産官学金連携事業の窓口、実施主体としての活動を継続して行ってきました。また、改修されたテクノセンター棟には、立ち寄りやすい産官学の連携活動の場を醸成できればとの思いから、地域支援室、地域連携セミナー室、展示・交流ホールなどを整備しています。

一方、本校の教育研究を支援いただいている地域連携アカデミアの前身となる教育研究振興会が結成されたのは平成 6 年度のことであり、こちらも 25 年以上の活動期間となっています。昨年度、一つの区切りとなる 100 社以上の会員企業に賛同いただけるようになり、教育研究に対する資金援助のみならず、本校学生の PBL 教育やキャリア教育等に対しても、企業技術者の方々に幅広く協力いただいております。連携の輪が広がっているところです。大変ありがたいことであると感謝するとともに、引き続き本校へのご支援をよろしくお願いいたします。

さて私たちが 30 歳というと、社会に羽ばたくための準備期間が終わり、これまでに培った能力や個性を生かして自身の存在意義を確立していこうとする段階なのではと思います。テクノセンターも同様に、これまでに蓄積してきた教職員の強みと特徴、保有する設備を活かして、積極的に地域の皆様と技術交流、情報交換をし、存在意義を確立していくことが必要となっています。

一緒に何かを「する」必要なんか少しも感じないで、しかも一緒に「いる」ということ。シュワルツのいう結婚の本質に到達するのは、容易なことではなく、長い期間がかかることですが、地域社会の一員として当たり前のように一緒にいる状態こそが、地域貢献の本質なのだと感じており、これからは皆様とかけがえのない関係性を築いていければと思っています。

この「JOINT2022」には、本校教職員が試行錯誤しながら取り組んでいる教育研究に関するシーズが詰まっています。この冊子をご覧ください。興味がある事項についてお気軽にお問い合わせいただければ、本校教職員がお話を伺って問題、課題を共有し、ともに解決に向け取り組みます。

私たちはこれからも皆様とともに歩み、一緒に成長していきたいのです。